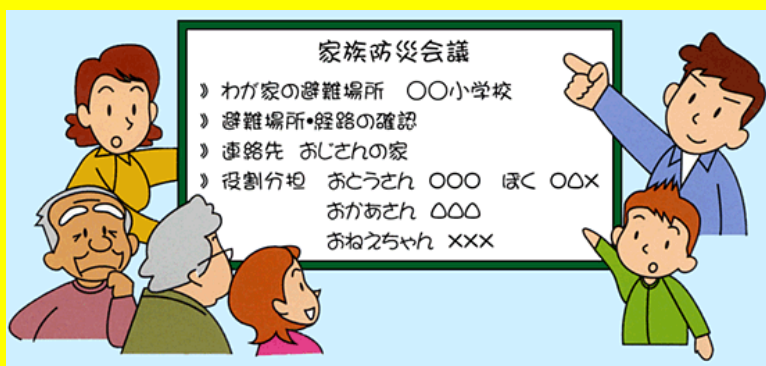




自主防災をみんなで考えましょう！



**各地区から徒歩・車で
避難者が押し寄せて来ました！**



**誰が！ どの様に！
避難所の運営をするのでしょうか？**

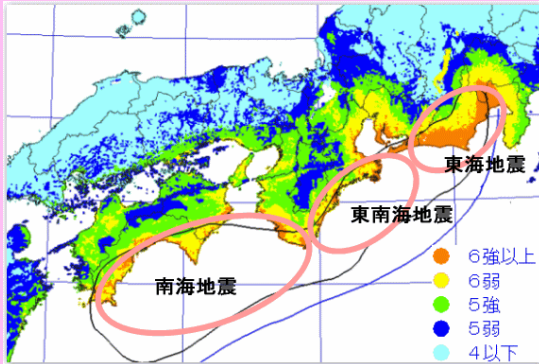
自主防災会、婦人消防クラブ、行政、消防、警察、病院、自衛隊、
ボランティアすべての人々が協力、助け合うことが重要です。。。

**避難した人達が協力し助け合い運営する。
避難所運営の主人公は避難者の皆さんです！**

《危機意識》を更に持って頂く為に《地震の発生率》を考えてみましょう！

「近いうちに巨大地震が来る」といつも私たちは耳にしています。
そして、「地震が発生する確率」に関する数値も、報道機関などにより見る事が多くなりました。
そこで地震の発生確率について考えましょう！

① 今後、30年以内に巨大地震の発生する確率



「東海地震」 87%

「東南海地震」60%

「南海地震」 50%



これって、
高い確率
でしょうか？

「30年以内に発生する確率です」と聞くと！
何んとなく 「起きそうにない」 気がするね！
何んとなく 「ずい分先の話」 のような気がするね！

② 今後 30年以内に地震以外の災害に遭遇する確率を見てみましょう。

交通事故で死亡する確率は → 約 0.2%
交通事故で怪我をする確率は → 約 20%



火災で死亡する確率は ➤ 約 0.2%
火災で負傷する確率は ➤ 約 2.0%



③ この地震以外の災害に遭遇する確率からすると
「東海地震」「東南海地震」「南海地震」が発生する確率 87%、60%、50%は、
高いのでしょうか？ それとも低いのでしょうか？
皆さんは、どう感じますか？



備えは危機感
から始まる！

地震以外の自然災害、事故、その他の30年発生確率

1	台風で死亡	0.01%	6	空き巣	3.40%
2	台風で負傷	0.48%	7	ひったくり	1.20%
3	ガンで死亡	6.80%	8	す り	0.58%
4	心疾患で死亡	3.40%	9	強 盗	0.16%
5	肺炎で死亡	2.00%			

宮城県沖地震 2005年8月16日11時46分25秒
マグニチュード7.2 最大震度は6弱 当時、今後30年以内にM7.5の地震が99%の確率で発生すると予測されていました。

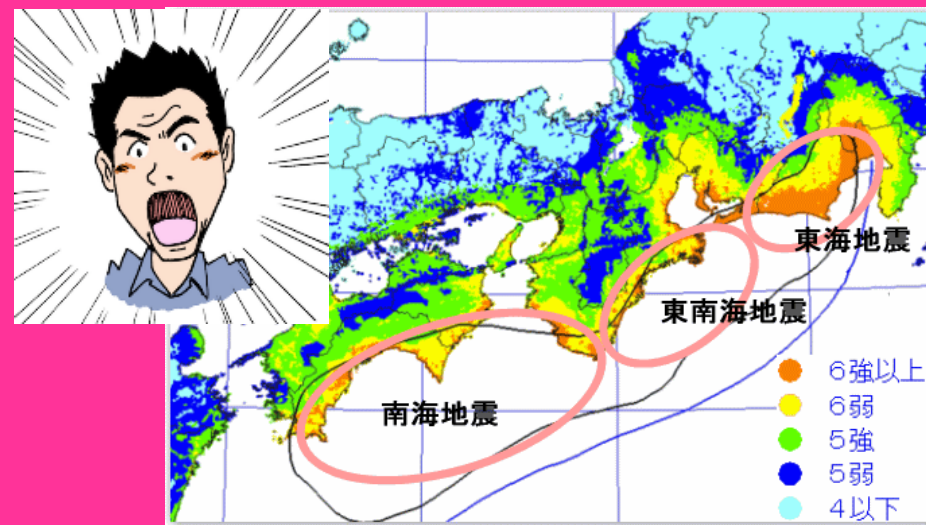
十勝沖地震 2003年9月26日 マグニチュード8.0 当時、今後30年以内に地震が60%の確率で発生すると予測されていました。

発生確率が高い地域においては、より地震への事前対策が重要になりますが、例えば現在確率が低い場所であっても、阪神・淡路及び新潟中越地震の例があるので、
日頃から十分な地震への意識を高め、巨大地震に対する備えが重要です。

過去の大震災と南海トラフ巨大地震の比較！

地震名	発生日	発生時間	マグネチュード	最大震度	死傷者数		倒壊数	
東海地震	???	???	M 8.0	7	死者		住家全壊	
	発生確率予想		(予想)		行方不明者		住家半壊	
	30年	88%			負傷者		住家一部損傷	
熊本地震	2016年		M 6.5	7	死者	239	住家全壊	8,671
	4.14	21:26	M 7.3	7	行方不明者		住家半壊	34,467
	4.16	1:25			負傷者	2,780	住家一部損傷	160,468
東日本大震災	2011年 3.11	14:46	M 7.9	7	死者	19,533	住家全壊	121,768
					行方不明者	2,585	住家半壊	280,160
					負傷者	6,230	住家一部損傷	744,396
新潟県中越地震	2004年 10.23	17:56	M 6.8	5弱	死者	68	住家全壊	3,175
		18:11		～	行方不明者		住家半壊	13,810
		18:34		7	負傷者	4,805	住家一部損傷	105,682
阪神・淡路大震災	1995年 1.17	5:46	M 7.3	7	死者	6,434	住家全壊	104,906
					行方不明者	3	住家半壊	144,274
					負傷者	43,792	住家一部損傷	

今にでも襲う、南海トラフ巨大地震！



自助・共助・公助の再確認

自助

自分と家族

自分と家族の安全は
自分で守る。
(防災の基本)

巨大地震へ備える！
個人の判断(防災の
基本です)

- 食糧、飲料水などの備蓄
- 家の耐震診断・耐震改修
- 家具の固定
- ラジオなどによる情報収集
- 家族での安否確認方法を確認
- 避難所と避難経路の確認

共助

地域・町内会

自主防災組織など地域
住民が相互に助け合う
こと。

近所付き合いが
大切です。

- 自主防災組織の初動活動
- 地域で防災訓練を実施
- 被災当初の救出・初期消火
- 避難所の運営など
- 地域の行事に参加して顔の
見える関係をつくる。

公助

行政機関

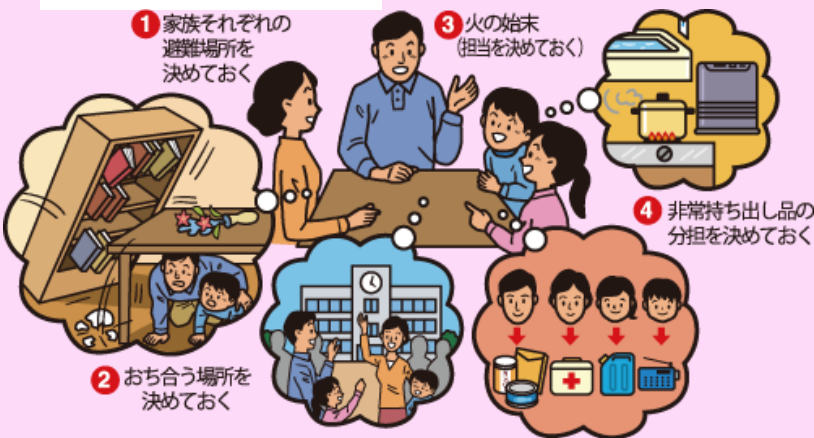
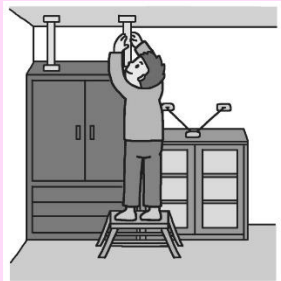
国・県・市や警察、消防
など行政機関による
防災活動

行政と町内会の連携
が重要です！

- 総合的な防災対策の実施
- 「自助」「共助」の推進
- 総合防災訓練の実施
- 自主防災会の育成・指導
- 防災意識の普及・啓発



☆家具と天井の間に使います☆



防災用具チェックリスト

非常時持ち出し品リスト

- ☐ ティッシュ
- ☐ タオル
- ☐ ボンacho
- ☐ 除菌シート
- ☐ マスク
- ☐ 携帯電話の充電器
- ☐ 印鑑
- ☐ 現金

(停電時に公衆電話で使用する
10円、100円硬貨含む)

- ☐ 止血するもの
- ☐ 懐中電灯
- ☐ ライター
- ☐ ナイフ
- ☐ 下着
- ☐ 手袋
- ☐ ラジオ
- ☐ 食品
- ☐ ヘルメット
- ☐ 電池
- ☐ 水
- ☐ 健康保険証書コピー
- ☐ めがね
- ☐ コンタクト用品
- ☐ 生理用品

乳幼児

- ☐ 離乳食
- ☐ 粉ミルク
- ☐ 加熱調理器具
- ☐ 消毒用品
- ☐ 紙おむつ
- ☐ おしりふき

高齢者

- ☐ 入れ歯
- ☐ 介護食
- ☐ 大人用紙おむつ

疾患のある方

- ☐ 主治医連絡先
- ☐ 持病薬メモ(処方箋等)
- ☐ 持病の薬

ペット

- ☐ 動物病院連絡先
- ☐ リード
- ☐ ケージ
- ☐ ペット用食品
- ☐ 排泄用品

備蓄品リスト

- ☐ ウォータータンク
- ☐ カセットコンロ
- ☐ カセットガス
- ☐ 調理用水
- ☐ 生活用水
- ☐ 飲料水(1人1日3リットル)
- ☐ 食料(アルファ化米、缶詰、レトルト食品、お菓子、栄養補助食品等)

- ☐ 缶切り
- ☐ 毛布
- ☐ 衣類
- ☐ ろうそく
- ☐ 簡易トイレ
- ☐ 歯磨きシート
- ☐ ウェットタオル
- ☐ 抗菌・消臭剤
- ☐ 救急セット
- ☐ 掃除用具(ほうき、ちりとり)

その他

- ☐
- ☐
- ☐

家族のためには



※予備メガネ、補聴器、持病の薬、お薬手帳など、家族に応じた非常持出し品を考えましょう。

枕元には



※夜、地震が起きた場合に備えて用意しておきます。飛び散らないように袋に入れておきましょう。

車の中や倉庫等には



※バール・ジャッキ・ TENT・毛布・寝袋・ビニールシートなども車の中や取り出しやすい場所に用意。

安否の確認などの連絡に家族間や

知人間などの連絡に活用できます。

NTT災害用伝言ダイヤル 171

ご利用にあたっての事前契約等は一切不要です。

■ 利用可能な端末

NTTの一般電話、公衆電話、携帯電話、PHS

■ 録音時間

1伝言 30秒以内

■ 蓄積伝言数

1電話番号あたり1~10伝言

■ 伝言保存期間

2日間(48時間:自動消去)

伝言の録音方法

171-1

伝言の再生方法

171-2

携帯電話の災害用伝言板については、各社で同様のサービスを提供していますので、確認しておきましょう。

掲載した標語は平成19年度に募集した防災標語の部門別最優秀作品です。表紙の作品は一般の部最優秀標語です。

古紙/レブを含んだ再生紙を使用しています。

お問い合わせ

愛知県 防災局 防災危機管理課

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

TEL. 052-954-6190

FAX. 052-954-6911

E-mail bosai@pref.aichi.jp

平成27年3月 発行/愛知県

☆水・緊急食糧・非常持出し品・転倒防止

自分と家族で備えよう





初期消火訓練



応急救命訓練



自主防災会組織 及び 任務分担一覧表

役 名	役 割	氏 名	住 所	電 話	担 当 (班)
会 長	本 部・避難所運営				
〈第1町内会〉 宅地・ガーデンタウン					
副 会 長	避難誘導・避難所運営				
情報連絡部長	広報・避難誘導				
活動本部長	救出・救護・消火				
活動班長 I	救出・救護・消火				1.2.3.4.5
活動班長 II	救出・救護・消火				6.7.8.9.10
活動班長 III	救出・救護・消火				11.12.13.14.15
活動班長 IV	救出・救護・消火				16.17
〈第2町内会〉 県営篠岡住宅					
副 会 長	避難誘導・避難所運営				
情報連絡部長	広報・避難誘導				
活動本部長	救出・救護・消火				
活動班長 I	救出・救護・消火				1.2.3.4.5.6.7.8
活動班長 II	救出・救護・消火				9.10.11~16
活動班長 III	救出・救護・消火				17.18.19~24
〈第3町内会〉 県営篠岡第2住宅					
副 会 長	避難誘導・避難所運営				
情報連絡部長	広報・避難誘導				
活動本部長	救出・救護・消火				
活動班長 I	救出・救護・消火				1.2.3.4
活動班長 II	救出・救護・消火				5.6.7
活動班長 III	救出・救護・消火				8.9.10.11
〈第4町内会〉 スカイステージ33					
副 会 長	避難誘導・避難所運営				
情報連絡部長	広報・避難誘導				
活動本部長	救出・救護・消火				
活動班長 I	救出・救護・消火				1.2.3
活動班長 II	救出・救護・消火				4.5.6
活動班長 III	救出・救護・消火				7.8.9
会 計	避難所運営				
書 記	避難所運営				
会 計 監 査	避難所運営				

☆自主防災会が機能するよう備える。
(救出・救護・消火・避難誘導・避難所運営など)

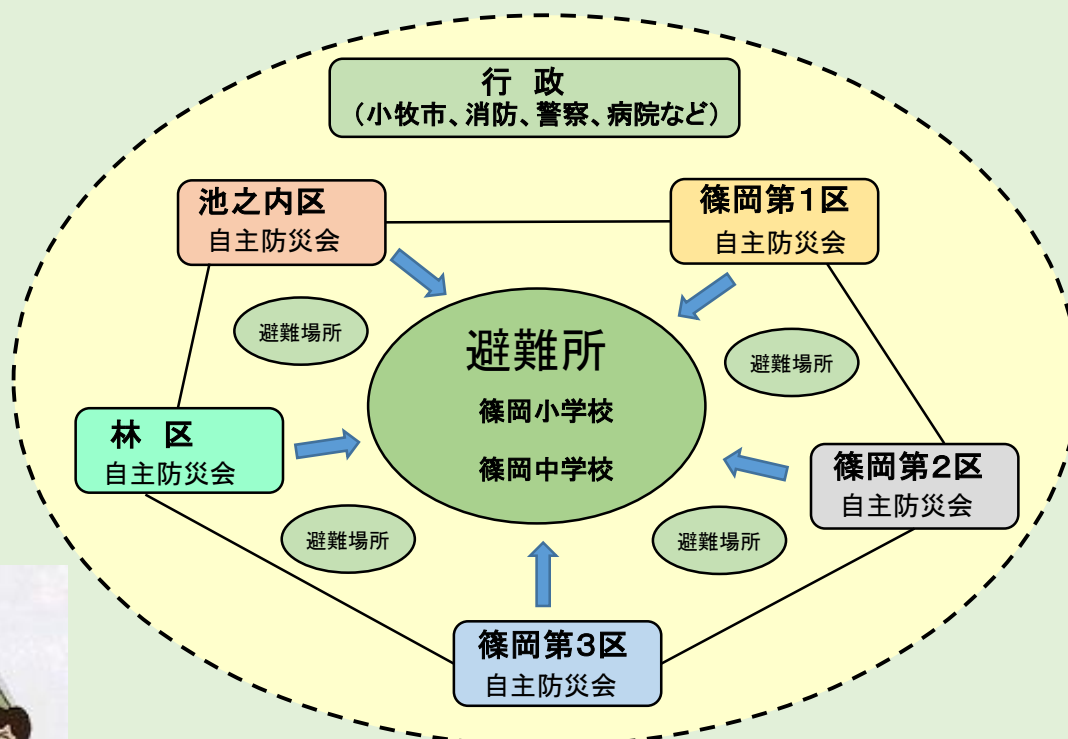
近隣と協力して備える(と)

篠岡小学校区

人口 6,550人

世帯数 2,359戸

自主防災活動に対する連携イメージ図



避難所の立上げ。避難所組織。避難所の施設準備

篠岡小学校区が連携して 備えること

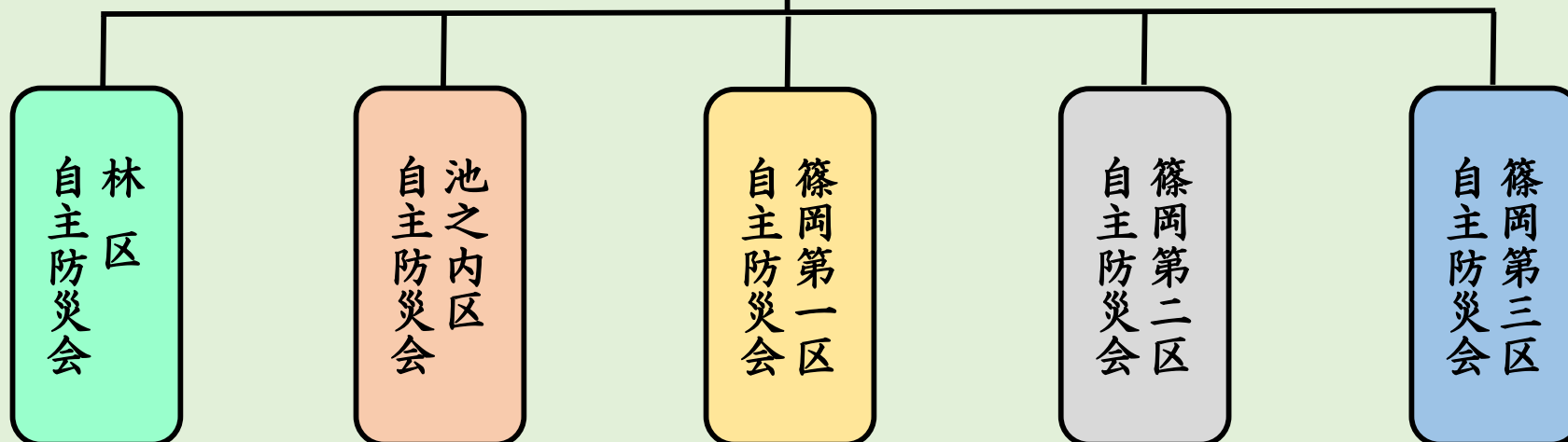


篠岡小学校区での防災体制を作いませんか？

地域防災

自主防災組織の活動！

地域防災本部??



各区自主防災会で運営が基本であるが
篠岡小学校区全体での活動の連携化を目指す

連携運用のテーマ

- ① 運営組織構築
- ② 避難所運営マニュアル
- ③ 各区民による訓練

参考資料

現在、作成中の避難所運営マニュアルです。

避難所運営マニュアル



平成30年3月版

篠岡小学校区地域協議会
防災防犯部会

参考資料・様式

- 1 参考資料
- 1 地域での避難所法 ① 運営委員会(避難所法)
 - 2 地域での避難所法 ② 避難所の概要
 - 3 避難所開設・運営のガイドライン(避難所法)

2 各種様式

- 1 避難所運営計画書
- 2 避難所運営計画書
- 3 避難所運営計画書
- 4 避難所運営計画書
- 5 避難所の運営方針(避難所法)
- 6 避難所運営計画書
- 7 避難所運営計画書
- 8 避難所の運営方針(避難所法)
- 9 避難所の運営方針(避難所法)
- 10 避難所の運営方針(避難所法)
- 11 避難所の運営方針(避難所法)
- 12 避難所の運営方針(避難所法)
- 13 避難所の運営方針(避難所法)
- 14 避難所の運営方針(避難所法)
- 15 避難所の運営方針(避難所法)
- 16 避難所の運営方針(避難所法)
- 17 避難所の運営方針(避難所法)

「参考資料・様式」は、避難所の運営に必要となる資料であり、避難所の運営に活用される資料です。また、避難所の運営に活用される資料であり、避難所の運営に活用される資料です。

避難所運営マニュアル

事前準備編

平成30年3月版

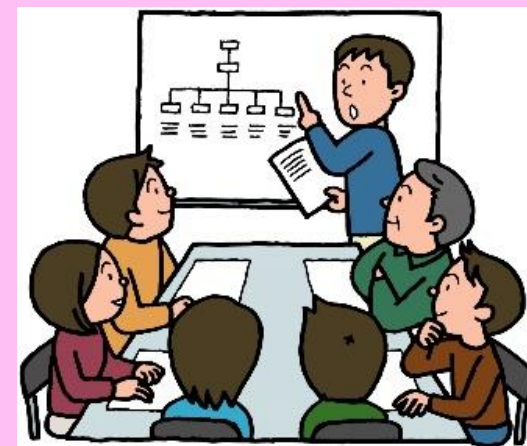
避難所運営マニュアル

初動対応編

避難所運営マニュアル

運営編

篠岡小学校区地域協議会
防災防犯部会のメンバーが
協働で協力して、平成30年
3月 完成を目指して頑張っ
てます！



初動期の避難所開設手順

地震発生

これが出来る
でしょうか？

1. 指定避難所
篠岡小学校
2. 発災時期
冬で雨が降り、夜間。(午後11時)
3. 初動期の活動(翌日の朝まで)

【緊急初動班(2名:市職員)】

- 体育館と備蓄倉庫の鍵を開錠
- 校門は無施錠。●体育館の分電盤の鍵あり。●校舎の鍵なし。

【集まったスタッフ为中心】

- 体育館の安全を確認
- 建物損傷、ガラス、ガス漏れ、漏水など

【体 育 館】

- ・照明設置・通路確保
- ・各区単位の避難位置設定・避難者の誘導
- ・ケガ人、救護スペースの設定
- ・授乳スペースの設置
- ・トイレ確認

【運 動 場】

- ・車中泊避難者の駐車誘導
- ※校舎から離れた場所優先
- ※車通路の確保(7m程度)
- ・運動場のトイレ確認

【最低限確保品】

1. 仮設トイレ
2. 飲料水・食料
3. 毛 布
4. 照 明

【トイレ使用不可の場合】

- ☆仮設トイレの設置
- ☆仮設トイレが設置されるまでは、簡易トイレ(凝固剤付)を使用。

■ 自助の部分参考データ

①家具固定率:約35%(東海) 約25%(全国) ⇒ 100%(目標)

全世帯で家具が固定されていれば、被害は相当少なくなる。

②世帯の食糧等備蓄率:約60%(東海) 約45%(全国) ⇒ 100%(目標)

全世帯で備蓄されていれば、発災当初の物資の心配はなくなる

■ 備蓄品リスト

	篠小	篠中	東部市民	合計
乾パン	384	384	420	1,188
簡易トイレ(凝固剤付)	10	—	—	10
災害弱者兼用トイレ	2	2	2	6
真空パック毛布	140	140	140	420
真空パックタオル	200	200	200	600
給水袋(10ℓ)	300	300	300	900
給水袋(5ℓ)	—	400	—	400
給水タンク(500ℓ)	2	2	2	6
多人数救急箱	1	1	1	3
移動式炊飯器(はそり鍋)	1	1	1	3
発電機(燃料入り)	2	2	—	4
スコップ	10	10	10	30
バケツ	20	20	20	60
ハンドマイク	1	1	1	3

■ 各地区防災倉庫

■ コミュニティ防災資機材の内容



①ヘルメット ②消火用バケツ ③災害救助道具セット
(バール・ハンマー・ジャッキ・ノコギリ・ロープなど)

④エアチューブ式水槽 ⑤救急箱 ⑥簡易担架

⑦土のう袋 ⑧消火栓用開閉器具 ⑨防水シート

自主防災会・婦人消防クラブ

役員・担当者

1年交代

深刻な課題です！

少子高齢化

町内会の誰かがやらなければ！

明日にでも巨大地震が発生するかも知れません！

備え！ が最高の避難です！ 自分の命を守ります！

今、やれることから地域住民が協力して、
自主防災が実践できる地域を築きましょう！

人間の意識の課題

災害への危機感は？

★ 心配ない！

★ 起きて見ないと分からない！

★ この地域は大丈夫だ！

起きてから分かるのが自然災害です。
そして、後で後悔するのが人間です。

皆さんへのお願いです！

- ★ 家庭に水・食料など備えていますか？
- ★ 近所で助け合いが出来ますか？
- ★ 町内会の自主防災活動が出来ますか？
- ★ 町内会に災害時居住者名簿はありますか？
- ★ 避難所運営組織はありますか？
- ★ 避難所に緊急用の
水・食料・毛布・仮設トイレなどが備えてありますか？

**どうか！みなさん！
危機意識を持って、出来ることから
巨大地震へ備えていきましょう！**

参考資料

自主防災会 対応活動内容



本部

- ・災害対策本部の設置
- ・各班の活動体制の指示、及び各班の調整
- ・住民の安全と所在の確認
- ・市災害対策本部との連絡
- ・在宅被災者の確認
- ・防災関係機関との情報授受
- ・被害状況の把握と防災関係機関への速報
- ・学校や事業所等との協力
- ・連絡手段の確保

**巨大地震
発生**

広報班

- ・出火防止、被害抑制、混乱回避、秩序維持等の広報活動
- ・出火状況の広報、消火活動への協力の呼びかけ
- ・被害状況の集計等
- ・避難勧告、指示等の広報
- ・河川の水位、危険箇所等の警戒

避難誘導班

- ・組織的かつ迅速な避難誘導の実施
- ・安全な避難路の確定
- ・地域災害対策本部への報告
- ・災害弱者(高齢者、障害者等)の優先避難
- ・避難者の人数確認
- ・避難用具の確保

消火・水防班

- ・初期消火活動
- ・消防車等の誘導
- ・部外者(ヤジウマ)の排除
- ・防災関係機関への協力
- ・防災関係機関への情報提供
- ・土のう作成等の水防活動
- ・スコップ等の水防資機材の調達

給食・給水班

- ・地区の被災者、避難者の人数や年齢等の確認及び、地区災害対策本部への連絡
- ・炊出しの実施
- ・市災害対策本部からの非常食、飲料水の受領
- ・非常食、飲料水の分配
- ・避難所運営班との協力
- ・ボランティアとの協力
- ・避難者への炊出し協力の要請

救出・救護班

- ・災害弱者(高齢者・身障害者)の安全確保や支援
- ・仮救護所の開設
- ・負傷者の応急手当、搬送等の救護活動
- ・救急車の要請及び誘導
- ・災害関係機関の救護所での協力
- ・救出・救護活動の住民協力要請
- ・住民の安全確認及び本部との連絡

避難所運営班

- ・避難所の開設及び避難所運営
- ・避難所施設管理者との打ち合わせ
- ・避難者名簿の作成及び市災害対策本部との連絡
- ・地区災害対策本部との連絡
- ・避難所内の班編成
- ・トイレの設置等

地震発生後の行動の目安

状況に応じ、もっとも人的被害を軽減すると判断される行動を取ることが大切です。

参考資料

災害時要配慮者へも心くばり



最初の大きな揺れは1分間

自分の身を守る

転倒の恐れのある家具等から離れ、机等の下に身を隠す。
あわてて外に飛び出さない。



揺れがおさまったら

出火防止・脱出口確保

ガスの元栓を閉め、コンセントを抜く。
火が出たら落ち着いて初期消火。ドア・窓を開けて脱出口を確保する。



地震発生から3日目まで

家族の安全確認、余震に注意

倒壊しかけた家屋に近寄らない。隣近所に声をかけ、状況により、徒歩で避難する。

隣近所で消火・救出・救護

隣近所で協力し、消火、ケガ人の救出・救護にあたる。

自力でのしぐ

備蓄しておいた飲料水、食料等を利用する。
デマに注意し、正しい情報をつかむ。



地震発生から4日目以降

生活の維持と回復

4日目以降も余震に注意し、情報の収集にあたる。復旧に向け努力する。



家の中

- 揺れを感じたら、テーブルなどの下に隠れ、身を守る。(余裕がなければ、手近の座布団などで頭を保護する。)
- 揺れがおさまったら、すみやかに火の始末をする。(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに。)



劇場・ホール・デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。
あわてず冷静な行動を。



- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や窓ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ちついた行動を。



車を運転中

- ハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落とし、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難を。



海岸付近

- 揺れを感じたら、ただちに高台などの安全な場所に避難する。津波警報や注意報が解除されるまでは海岸に近づかない。



路上

- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意。
- 近くに空き地などのないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。



- その場に立ち止まらず、窓ガラス・看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。



電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ちついた行動を。



災害時要配慮者（一人暮らしや寝たきりなどの高齢者、身体的、知的な障害を有する人など）に対する援助も必要です。災害が発生した場合、情報把握、避難、生活の確保などの活動を、的確かつ迅速に行いにくい立場に置かれてしまいます。私たち一人ひとりがお互いに協力しあい、地域が丸となって積極的な支援を行えるよう心がけましょう。

高齢者・傷病者

- 援助が必要なときは、複数の人で対応する。
- 急を要するときは、ひもなどで背負い安全な場所まで避難する。



肢体の不自由な人

- 車いすは、階段では必ず2人以上、できれば3~4人で援助する。
- 上がるときは前向きに、下がるときは後ろ向きにして恐怖感を与えないように。
- とっさの脱出、避難の際に用救援者1人に対して、救援者が2人以上いるとは限らない。ひもなどで背負い、要配慮者の両手は自由がきくようにする。



耳が不自由な人



- 話をするときはまっすぐ顔を向け、口はなるべく大きく動かして話す。
- 筆談（筆記法）は手のひらに指先で文字を書くやり方でもよい。

目の不自由な人

- 杖を持った方の手はとらない。
- 手先や手首を持たないでひじのあたりに軽く触れて、ゆっくり歩く。
- 方向や目の前の位置などは、時計の文字盤の位置を想定して伝える。



外国人・旅行者

- とっさのときは、身振り手振りで話しかけ、孤立させないようにする。
- 旅先では非常口の確認を。



帰宅困難者を支援します

外出先で大規模地震になったら？

まずは、身の安全が確保できる場所へ避難します。帰宅経路の安全が確認できるまでは、「むやみに移動（帰宅）を開始しない」ことが大切です。また、外出先で情報を入手するための携帯ラジオ、携帯電話や予備バッテリーのほか、自宅までの地図を持ち歩きましょう。

徒歩帰宅支援ステーション

徒歩で帰宅するときは、県と協定を結んだコンビニエンスストア、ガソリンスタンド、郵便局等の店舗で、「水道水」「トイレ」「店舗が知れた災害情報」の提供支援が受けられます。店舗入り口の「徒歩帰宅支援ステーション」ステッカーが目印です。



防災ボランティア

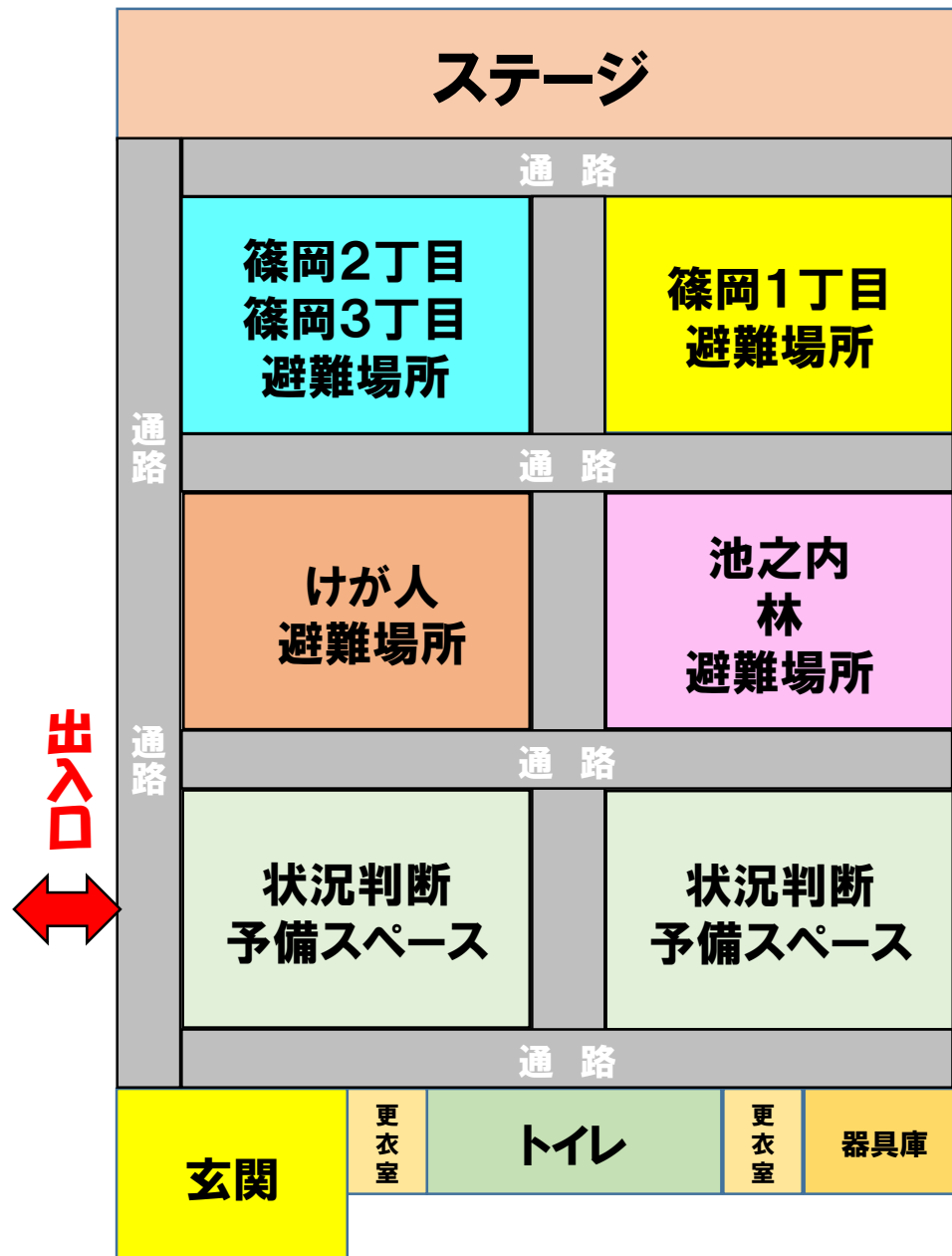
阪神・淡路大震災のように大きな災害がおきれば、ボランティアが活躍します。自らの町を守る自主防災組織等に対して、ボランティアは被災者のために全国から駆け付けます。そのボランティアが十分に力を発揮するためには、ボランティアの熱意と被災者からのニーズを

調整するボランティア・コーディネーターおよびボランティア同士の協力・連絡が必要不可欠です。迷惑ボランティアにならないように、現地へは自動車で行かないことなどを心がけ、被災した方々を助け合いましょう。



そんなとき
どうする





雨天時

